

第17回 発電用設備規格委員会 材料専門委員会 議事録

1. 日 時: 2012 年 11 月 27 日(火) 13 時 30 分～17 時 00 分

2. 場 所: 日本機械学会 第1会議室

3. 出席者: 委員総数 23 名中、出席者 20 名(代理 1 名)、欠席者 3 名

増山(九工大)、高橋(電中研)、木村(NIMS)、浅山(JAEA)、石毛(IHI)、伊勢田(新日鐵住金)、木原(ベストマテリア)、三枝(電中研)、澤田(NIMS)、榎木(住金テクノロジー)、田村(パブ日立)、中城(東芝)、藤森(日立 GE)、船田(JNES)、南(NKK シームレス鋼管)、山田(中電)、吉田(発電技検)、朝田(三菱重工)、安田(原安進)

代理人:小枝[田中(日本製鋼所)]

欠席者:安藤(横浜国大)、尾崎(東電)、齋藤(三菱重工)

オブザーバー:なし

事務局:小沢

4. 配布資料

資料材 17-1	第 16 回材料専門委員会議事録(案)
資料材 17-2	材料専門委員会委員名簿及び出欠状況等
資料材 17-3	第 62 回発電用設備規格委員会議事録(案)
資料材 17-4	材料専門委員会 課題対応一覧(Tracking List)
資料材 17-5	材料事象の解説
資料材 17-6	欠番
資料材 17-7	材料専門委員会委員長の選任手続きについて(案)
資料材 17-8	材料規格高度化のための材料専門委員会へのレビュー依頼について(提案)
資料材 17-9	「一般社団法人 原子力安全推進協会」の設立について

5. 議事内容

(1)開会

委員総数 23 名中、出席 18 名(開会時、代理出席 1 名を含む)であった。出席者は委員総数の 2/3 以上(16 名以上)であり、本委員会は成立することを確認し、増山委員長が委員会開催を宣言した。出席者の自己紹介を行った。

(2)議事次第確認

議事次第(案)と配布資料を確認し、議事次第(案)記載の配布資料を1件(17-6)削除し、2件(17-8,9)追加した。

(3)議事録(案)の確認 【材 17-1】

第 16 回材料専門委員会の議事録(案)の確認を行い、議事録案は承認された。

(4)委員委嘱関係 【材 17-2】

扇柳委員、安藤委員、石毛委員の 3 名から退任届が提出されていることが報告された。扇柳委員はすでに退任しており、安藤委員と石毛委員は 2012 年 12 月末までの委員任期満了に伴い退任する。

新任委員候補として伊藤拓哉氏の推薦があり、出席委員全員(18 名)の賛成により、規格委員会に

新任委員候補として推薦することが承認された。

退任する3名の委員と安田委員を除く20名の再任委員候補について再任の審議を行った。委員会成立には16名の出席が必要であり、この時点での出席者は19名であった。そこで、名簿順に3名の再任委員候補に対して、16名の委員により再任の審議を行った結果、20名の再任委員候補全員について出席委員全員の賛成により、規格委員会に再任委員候補として推薦することが承認された。

(5)「一般社団法人 原子力安全推進協会」の設立について【材 17-9】

「一般社団法人 原子力安全推進協会」の設立について報告があった。

(6)規格委員会報告 【材 17-3】

第62回発電用設備規格委員会議事録(案)の材料専門委員会関連部分が報告された。

6. 審議事項

(1)材料専門委員会課題対応一覧(Tracking List) 【材 17-4】

以下の4課題が審議未了であることを確認した。

RQ09-C2-002: (増山)材料事象に関する解説(非強制規格)

RQ09-C2-003: (増山、木原、石毛、齋藤、田村、山田)既存設計規格の中の材料関連事項の見直し

RQ10-C2-001: (高橋)デジタルデータ提供の手順

RQ12-C2-001: (木村)ファイル共有機能の運用ルール

(2)RQ09-C2-002:材料事象の解説 【材 17-5】

材料専門委員会書面投票番号 No.7「発電用設備規格関連の材料事象非強制規格案」は投票が成立(委員23名、投票:23票)し、投票議案は可決(賛成:22票、保留:1票)されたことが報告された。

参考意見及び保留意見の内容について意見提出者から説明があり、意見対応について審議を行い、今後の対応を以下のように決定した。

1) コメント対応清書版の作成分担委員を決定した。

・A100, A200: 澤田委員

・A300, A400: 齋藤委員

・A500, A600: 朝田委員

・A700, A800: 石毛委員

・A900: 田村委員

2) 書面投票に諮った規格案「発電用設備規格関連の材料事象.pdf」のワードファイルを、増山委員長がコメント対応清書版の作成分担委員に送付する。

3) 上記分担委員は、作成したコメント対応清書版を2013年1月18日までに、委員会共有スペースにアップロードする。

4) 次回委員会で、コメント対応内容を審議する。

(3)材料規格高度化のための材料専門委員会へのレビュー依頼について 【材 17-8】

発電用原子力設備規格 材料規格 2012年追補公衆審査版に記載されている、材料への特別要求事項の必要性、妥当性、充足性等に関するレビューについて、山田委員から提案があった。本提案は、

課題番号 RQ09-C2-003「既存設計規格の中の材料関連事項の見直し」に該当するものであり、新規課題 RQ12-C2-002 として登録することが承認された。次回の材料専門委員会で山田委員がレビュー内容の詳細を説明することとした。

(4) 圧力容器関連規格 (JIS B8265, B8267) に関する状況説明

木原委員から、圧力容器関連規格 (JIS B8265, B8267) に関する策定経緯と検討状況が口頭で説明された。次回の材料専門委員会で木原委員がより詳細な内容を報告することとした。

(5) 今後の活動方針について

材料専門委員会の今後の活動方針について審議を行い、今後の検討課題として以下の項目を確認した。

- 1) 高強度フェライト系鋼に関する事項
- 2) 物理的性質データの確認、見直し
- 3) 許容応力表の注記項目の確認、整理、見直し
- 4) P-No.、EPC 等の設定ルール
- 5) 新規材料規格化プロセスの実運用
- 6) JIS 規格と連携した材料規格の統合

原子力材料規格への登録申請を目的として SN 材のデータ取得を計画しているので、SN 材の試験データ解析による設計値の評価を、新規材料規格化プロセスの実運用とすることができる。すでに取得済の他材料の試験データについては、来年にも検討が可能である。

JIS 規格と連携した材料規格の統合に関しては、日本高圧力技術協会における許容応力表の維持作成活動との関係を考慮・調整する必要がある。

(6) 材料専門委員会委員長の選任手続きについて【材 17-7】

材料専門委員会委員長の選任手続き(案)が事務局から説明され、委員長選任投票期間を以下のよう
に修正して実施することが承認された。

委員長選任投票期間:2012 年 12 月 21 日～2013 年 1 月 21 日

7. 次回開催予定

日 時:2013 年 2 月 21 日(木) 13:30-17:00 (予定)

場 所:日本機械学会第 1 会議室

以 上